

解決 **トラブルシューティング**

😊 **今なら間に合う!** 😞 **間に合わない?**

(タキイ種苗開発部)

野菜は一つとして同じ生育をたどるものではありません。低温・高温、乾燥・過湿、曇天・日焼け、多肥・肥切れetc.、一度バランスを崩した野菜は、トラブルとなってその症状を現

します。そこから対応できることもあれば、もはや手遅れな場合もあります。このシリーズでは回復可能な事例はその対処例を、無理な事例は次回対策等を紹介するものです。

本号のテーマ **軟弱野菜の抽苔を予防する対策は?**

😊 対応可能な処理 😞 対応不可能

●ケース: 抽苔して花が咲いてしまった

対策 **×**

😞 抽苔して花が咲いてしまったからの対処方法はありません。花が咲く前に十分な対処を行うことで発生が抑えられます。

😊 比較的低温伸長性のある早生品種や、晩抽性のある品種を使用したり、ベタがけなどの資材を活用しましょう。



↑ 抽苔したホウレンソウ。 ↑ 抽苔したミズナ。

◎原因

①ホウレンソウの場合

ホウレンソウは一般に長日条件で花芽ができ、抽苔(トウ立ち)が起こりやすくなります。特に日長が長い4~7月まきは要注意です。また市街地などでは、街灯や夜間照明など人工照明の影響を受けることもあります。高温・低温・乾燥・肥切れなどによる生育遅延や過湿による根傷み、厚まきによる生育徒長、曇天続き(日照不足)などの生育上のストレスも抽苔を助長させる原因となります。

②コマツナ・ミズナの場合

発芽して低温に一定期間あうと花芽ができ、その後の高温・長日条件で抽苔が起こりやすくなります。一般的に13℃以下の低温に感応しやすいので早春どりの作型は要注意です。また、乾燥や根傷みによる生育遅延も抽苔を助長させます。

◎予防方法

①ホウレンソウ

春夏まきの栽培では、抽苔しにくい晩抽系の品種を使用します。「晩抽サマースカイ」「サマースカイ^{アールセブン}R7」「おかめ」は特におすすめの品種です。

発芽・生育を順調に促すために、有機質に富んだ膨軟な土壌条件にして、灌水管理で圃場の適湿条件を保ちます。春夏まきでは、降雨により立枯れ病や過湿による根傷みが発生しやすくなるので、雨よけ栽培を基本とし、排水性を十分確保してください。

春夏栽培の株間は5~7cmとやや広めにとり、がっちりとした株にして抽

苔を抑えます。

②コマツナ・ミズナ

春まきは平均気温が13℃以上になってから播種しますが、それより低温条件では、ハウス栽培か被覆資材を使ったトンネル栽培で地温を確保する必要があります。

冬~早春の低温期の播種には、比較的低温伸長性のある早生品種か晩抽性の品種を使用します。コマツナでは生育の早い「菜天」「夏菜天」「菜々子」、ミズナでは晩抽性にすぐれる「京かなで」がおすすめです。

圃場の適湿を保ち収穫期まで生育をスムーズに進め、収穫遅れに注意します。生育がスムーズにいかない場合、ベタがけで地温を確保し、生育遅延を回避します。また、亜リン酸肥料の「ホストマト」を葉面散布し根張りを促します。チッソが効きすぎた場合などは有効ですが、葉物関係での使用は注意が必要です。一般的な葉面散布には「ヨーゲン」シリーズがおすすめです。



← 発根促進および地上部の生育促進のために「ヨーゲン」シリーズを。写真は「ヨーゲンリッチ」。